

玉川大学 文学部 国際言語文化学科
「学生による授業評価アンケート」 結果・分析

**2004年度 春学期
無断転載を禁止します。**

文学部 国際言語文化学科 2004 年度春学期 授業評価アンケート

アンケート実施概要

○実施時期: 2004 年度春学期終了時 2003 年 7 月 2 日～15 日 ○調査対象: 玉川大学 文学部 国際言語文化学科 1, 2 年生

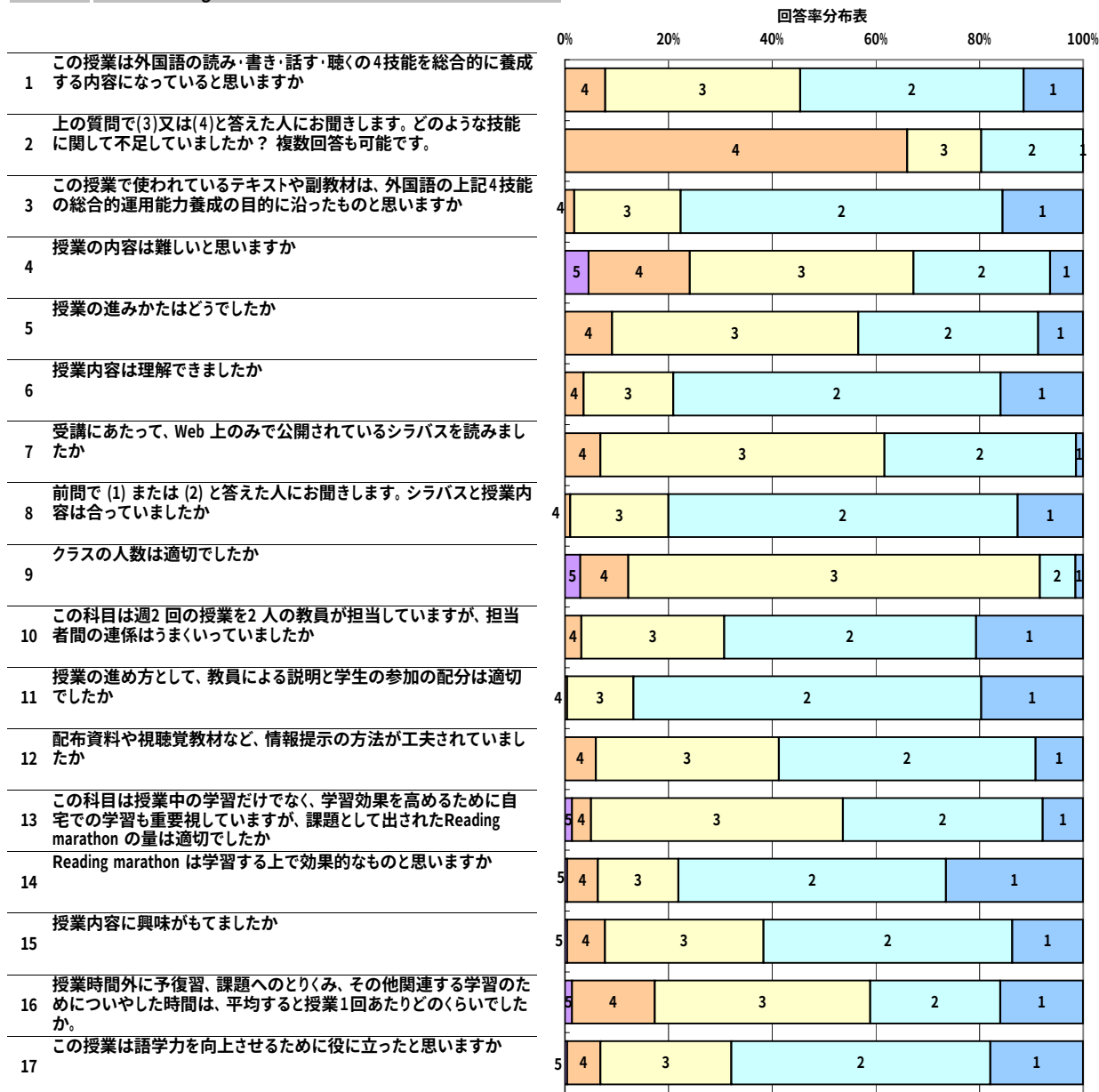
注 1: 国際経営言語文化学科は、平成 14 年度設置。在籍者は 1, 2, 3 年生。 注 2: コア科目、選択科目は除く。

対象科目の分類	科目数	クラス数 (回答枚数)	担当 教員数
【大分類 A】 この分類に属するのは、1 年生対象の Intensive English I である。 科目名: Intensive English I	1	13 クラス (220 枚)	26
【大分類 B1】 この分類に属するのは、1 年生対象で英語以外の Intensive と名のつく授業である。 科目名: Intensive German/French/Spanish/Chinese I	4	8 クラス (219 枚)	16
【大分類 B2】 この分類に属するのは、2 年生対象の Intensive (Intermediate) と名のつく English を除く授業である。 科目名: Intensive German/French/Spanish/Chinese (Intermediate)	4	8 クラス (219 枚)	16
【大分類 B3】 この分類に属するのは、2 年生対象の Intensive English(Intermediate) である。 科目名: Intensive English (Intermediate)	1	9 クラス (211 枚)	18
【大分類 C1】 科目名: English Communication, Communicative German/French/Spanish/Chinese	3	17 クラス (305 枚)	17
【大分類 C2】 科目名: English Communication (Intermediate), Communicative German/French/ Spanish/Chinese (Intermediate)	8	8 クラス (77 枚)	8
【大分類 D】 この分類に属するのは、Communication を除く言語メジャー科目。 基本的に講義ではなく演習を中心としたスキル系の授業である。 科目名: 2 年生対象 English Grammar, Listening Skills (Intermediate), Speech Clinic)	3	4 クラス (78 枚)	4
【大分類 E】 この分類に属するのは、1 年次基幹文化系科目である。 科目名: 欧米文化概説, 欧米文学概説, 中国文化概説, 日本文化概説, 観光概説, 応用言語学概説	6	6 クラス (238 枚)	20
【大分類 F】 この分類に属するのは、2 年生対象 基幹文化系科目および文化メジャー科目。 科目名: <基幹文化系科目> 比較文学論 情報文化論/国際関係論/多文化社会論/西洋文化史/文化人類学 <文化系メジャー科目> 地域研究(ヨーロッパ)/地域研究(日本)/地域研究(イギリス) /地域研究(中南米)/地域研究(アジア)/地域研究(北米)/地域研究(オセアニア) 地域研究(イギリス)/地域研究(日本)/観光英語/音声学/日本語教育概論/旅行産業論/言語学概論/西洋史/イギリス文学史/日本文学史/ドイツ文学史/日本語学概論/コンピューターと学習支援	25	25 クラス (888 枚)	25

大分類A

科目名 Intensive English I

回収回答枚数 220枚



注1: アンケート対象学年は、1, 2年生。

注2: 回答率は、有効回答数に対しての各回答の割合。

注3: 評定平均 = ([5] 回答数 × 5 + [4] 回答数 × 4 + [3] 回答数 × 3 + [2] 回答数 × 2 + [1] 回答数 × 1) / (有効回答数)。少数第2位四捨五入。

評定平均	評価分布 (各回答率%)					無効回答数	有効回答数
	5 全くない	4	3	2	1 とてもよい		
2.42	いいえ				はい		
	7.8	37.6	43.1	11.5		2	218
3.46	話す 聞く 書く				読む		
	66.1	14.3	19.6	0		164	56
2.09	いいえ				はい		
	1.8	20.5	62.1	15.5		1	219
	易しい	適切	難しい				
2.90	4.5	19.5	43.2	26.4	6.4	0	220
	遅い	適切	早い				
2.57	0	9.1	47.5	34.7	8.7	1	219
2.09	いいえ				はい		
	3.6	17.3	63.2	15.9		0	220
	知らない	読んだ					
2.67	6.8	54.8	37.0	1.4		1	219
2.08	いいえ				はい		
	1.1	18.9	67.4	12.6		125	95
	少ない	適切	多い				
3.05	2.9	9.3	79.4	6.9	1.5	16	204
2.13	いいえ				はい		
	3.2	27.5	48.6	20.6		2	218
	いいえ				はい		
1.94	0.5	12.8	67.1	19.6		1	219
	いいえ				はい		
2.38	6.0	35.3	49.5	9.2		2	218
	少ない	適切	多い				
2.52	1.4	3.7	48.6	38.5	7.8	2	218
2.02	いいえ				はい		
	0.5	5.9	15.5	51.6	26.5	1	219
	いいえ				はい		
2.33	0.5	7.3	30.6	47.9	13.7	1	219
	2日以上	1～2日	30～60分	30分以内	ほぼなし		
2.62	1.4	16.0	41.6	25.1	16.0	1	219
2.22	いいえ				はい		
	0.5	6.4	25.2	50.0	17.9	2	218

注4: 「いいえ----はい」は、「否定的----肯定的」回答を総称したもの。

例: 「まったくできなかった-あまりできなかった-ある程度できた-よくできた」

注5: ブランクの部分は回答を設けていない。

大分類 A(Intensive English I、13 クラス)結果分析

●授業の成果について（問 6， 15～17）

問 6 61.7%が「ある程度理解できた」と回答し、昨年とほぼ同じ結果である。

問 15 授業内容に興味を「とても持てた」学生の割合は昨年の 7.8%から 13.7%に増えた。しかし、「ある程度持てた」学生は減少（59.9%→47.9%）、逆に「あまり持てなかった」（28.8%→30.6%）「全く持てなかった」（3.5%→7.3%）学生は増加した。全体として、興味をもてた学生の割合は減少傾向である。また、この質問に対する回答の傾向は、問 6 の理解度と並び総合的評価（問 17）との相関性が高い傾向がみられる。興味をもてなかった学生が多いという結果にもかかわらず総合的評価が高いクラスも、いくつかあった。

問 16 授業外の勉強時間は、30分から1時間が 41.7%と最も多く、1～2時間（25.1%）、2時間以上（16.0%）と続く。学習時間が1時間未満の学生も 17.4%を占めており、指導上の課題である。

問 17 Intensive English に対する総合的な評価は、肯定的回答（「とても」および「ある程度」役立った）が昨年に比べ 80.2%→67.9%と減少、否定的回答（「あまり」および「全く」役立たなかった）が 19.8%→31.6%の増加で、残念な結果となった。

●授業の内容について（問 1～2、4～5）

問 1 4 技能のバランスについては否定的な評価が 45.4%で、昨年より若干増加している。

問 2 どの技能に関して不足しているかについては、昨年は 11.8%であった「読む」がゼロになった。テキストを替えた影響が考えられる。その反面「書く」（昨年 8.8%→今年 19.6%）、「話す」（58.8%→66.1%）の不足を感じた学生は増加した。

問 4 「とても難しい」「やや難しい」を合わせて昨年は 39.5%であったが、今年は 32.8%に減少した。一方、「やや易しい」「とても易しい」の合計は昨年の 18.7%に対して今年は 24.0%に増えた。全体としてももの足りなさを覚えた学生が四分の一に達しており、カリキュラムを見直す一つのポイントになりそうである。

問 5 授業の進み方が「速い」と感じた学生はやや増加、「遅い」と感じた学生もやはり若干増加している。

●授業の方法について（問 3， 7～14）

問 3 テキストについては 77.6%が肯定的に評価した。

問 7 シラバスを「熟読」あるいは「少し読んだ」学生の合計は 38.4%であるが、これは昨年の 23.8%に比べればかなりの改善といえる。

問 8 シラバスを読んだ学生の 8 割以上は、シラバスと実際の授業内容がある程度以上合っていたとしている。

問 9 クラスの人数については、昨年同様 8 割の学生が「適切」と回答した。

問 10 担当教員 2 名間の連携は、昨年に比べよくない結果となった。連携が「よくとれていた」「ある程度とれていた」を合わせた数字は昨年の 79.6%から 69.2%に下がり、逆に「あまりとれていない」「全くとれていない」が 20.3%から 30.7%に増加した。この項目で好評価のクラスの総合評価が必ず高いとは言えないが、連携が悪いとされたクラスはおおむね総合評価も芳しくない。

問 11 教員による説明と学生の参加の配分については、86.7%がある程度以上よかったと評価している。

問 12 情報提示の方法については、昨年と同じ傾向で、工夫があったとした学生がほぼ 6 割、なかったとした学生が 4 割である。

問 13 リーディング・マラソンの量については、適切であったという回答が昨年に比べ減少(60.0%→48.6%)し、「やや多い」「とても多い」という回答が増加(36.9%→46.3%)した。問4で授業の内容が難しいと回答した学生が減少していたのとは、逆の傾向であるといえる。

問 14 4分の3の学生がリーディング・マラソンはある程度以上効果的としている。

総合評価

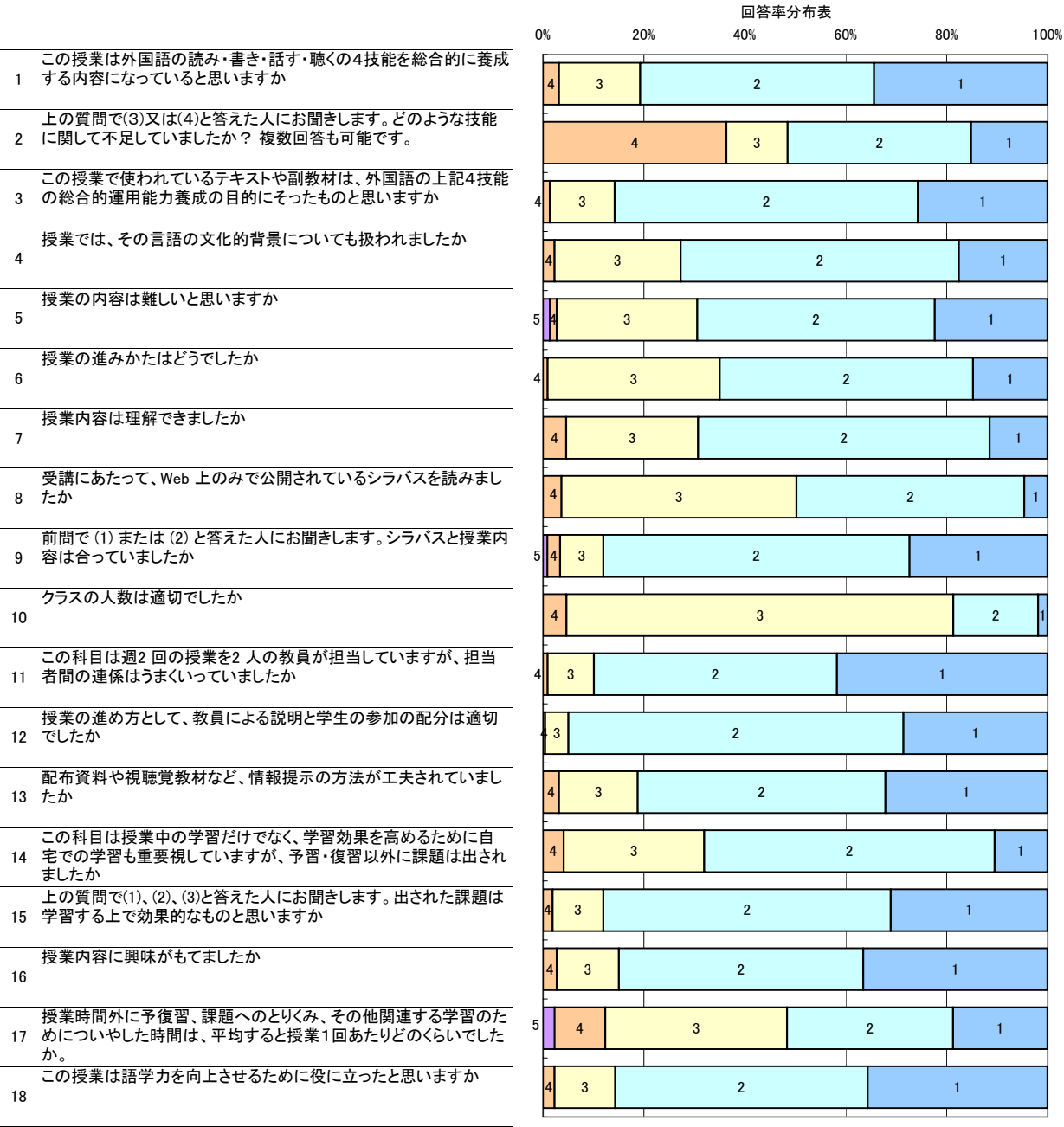
英語に関しては、留学経験の有無や学力にかなり差がついた状態で学生が入学してくる。このため、今後は学生の異なるニーズにどのように対応したカリキュラムを編成できるかが検討課題である。

大分類B1

科目名 Intensive German/French/Spanish/Chinese I

回収回答枚数

219枚



注1:アンケート対象学年は、1, 2年生。

注2:回答率は、有効回答数に対しての各回答の割合。

注3: 評定平均 = (「5」回答数 × 5 + 「4」回答数 × 4 + 「3」回答数 × 3 + 「2」回答数 × 2 + 「1」回答数 × 1) ÷ (有効回答数)。少数第2位四捨五入。

評定平均	評価分布 (各回答率%)					無効回答 数	有効回答 数
	5 全くない	4	3	2	1 とてもよい		
1. 88	いいえ	はい				1	218
2. 70	話す	聞く	書く	読む		186	33
1. 90	いいえ	はい				1	218
2. 12	いいえ	はい				3	216
2. 12	易しい	適切	難しい			0	219
2. 21	遅い	適切	早い			2	217
2. 24	いいえ	はい				1	218
2. 49	知らない	読んだ				2	217
1. 89	いいえ	はい				102	117
2. 84	多い	適切	少ない			5	214
1. 69	いいえ	はい				1	218
1. 77	いいえ	はい				2	217
1. 90	いいえ	はい				1	218
2. 26	いいえ	はい				0	219
1. 83	いいえ	はい				10	209
1. 81	いいえ	はい				0	219
2. 44	2日以上	1～2日	30～60分	30分以内	ほぼなし	0	219
1. 81	いいえ	はい				3	216

注4:「いいえ」「はい」は、「否定的」「肯定的」回答を総称したもの。

例:「まったくできなかった-あまりできなかった-ある程度できた-よくできた」

注5:ブラントの部分は回答を設けていない。

大分類B1 結果分析

この分類に属するのは、英語以外の Intensive と名のつく 1 年生対象の授業である。

科目名：Intensive German/French/Spanish/Chinese I

一問昨年と異なった質問があるが、それ以外は、主として昨年の同じ質問との比較を行なった。

◆ 授業の成果について（問 7、16～18）

問 7 授業内容を「よく理解できた」、あるいは「ある程度理解できた」とする肯定的評価が 69.3%と、おおむね好評価である。昨年の 63%からやや改善した。

問 16 授業内容に「とても興味が持てた」「ある程度興味が持てた」という肯定的評価は 84.9%と、たいへん好評価である。昨年の 78%からやや改善した。

問 17 今年度新設の質問。回答は分散しているが、もっとも多かった授業一回あたりの学習時間は「30 分～1 時間」で 36.1%、ついで「30 分以内」が 32.9%と、かなりの学生がこのどちらかに入る。また「ほとんどしなかった」学生も 18.7%にのぼり、きわめて憂慮すべき結果となっている。授業外の学習時間を増やす工夫が、今後の課題になると考えられる。

問 18 昨年同様、授業が語学力向上に「とても役に立った」「ある程度役に立った」とする肯定的評価が 85.6%と、たいへん好評価である。（昨年 83.3%）。

◆ 授業の内容について（問 1～2、4～6）

問 1 4 技能をある程度以上にバランス良く養成するとする肯定的評価が 80.7%。昨年の 75.7%からやや改善した。

問 2 問 1 で否定的評価をした人（19.3%）のみが回答する質問。昨年は「書く」がもっとも多く 37.3%であったが、今回も 36.4%と変わらなかった。一方「話す」が不足しているとする回答は、昨年 30.5%から 36.4%に増加し、「書く」と並んだ。「読む」の不足も 6.8%から 15.2%と倍増した。唯一減少したのが「聞く」の不足で、25.4%から 12.1%と半減した。聞く練習が増えて、話したり、読んだりする練習が減った、と解釈される。

問 4 言語の文化的背景が十分、あるいはある程度扱われたとする肯定的評価（回答 1 および 2）は 72.9%。昨年の 65.9%よりやや改善した。

問 5 授業内容の難易度について 5 通りの選択肢のうち、「やや難しかった」とする学生が 47%ともっとも多く、「難しかった」とあわせると 69.4%（昨年の同部分の合計 75.3%）である。

問 6 授業進度について 5 通りの選択肢のうち、「やや早い」（50.2%、昨年 44.7%）と、「適切」（34.5%、昨年 37.3%）と答える学生で大多数を占める。

◆ 授業の方法について（問 3、8～15）

問 3 テキストや副教材に対する肯定的評価は 85.2%と、昨年（87%）同様たいへん好評価である。

問 8 Web シラバスの「存在さえ知らない」という回答は昨年の 17.6%から 3.7%に減少した。「見ていない」学生は 54.5%から 46.5%とやや減少した程度だが、「少し読んだ」学生が 27.1%から 45.2%、「熟読した」が 0.8%から 4.6%と大幅に増えた。入学し

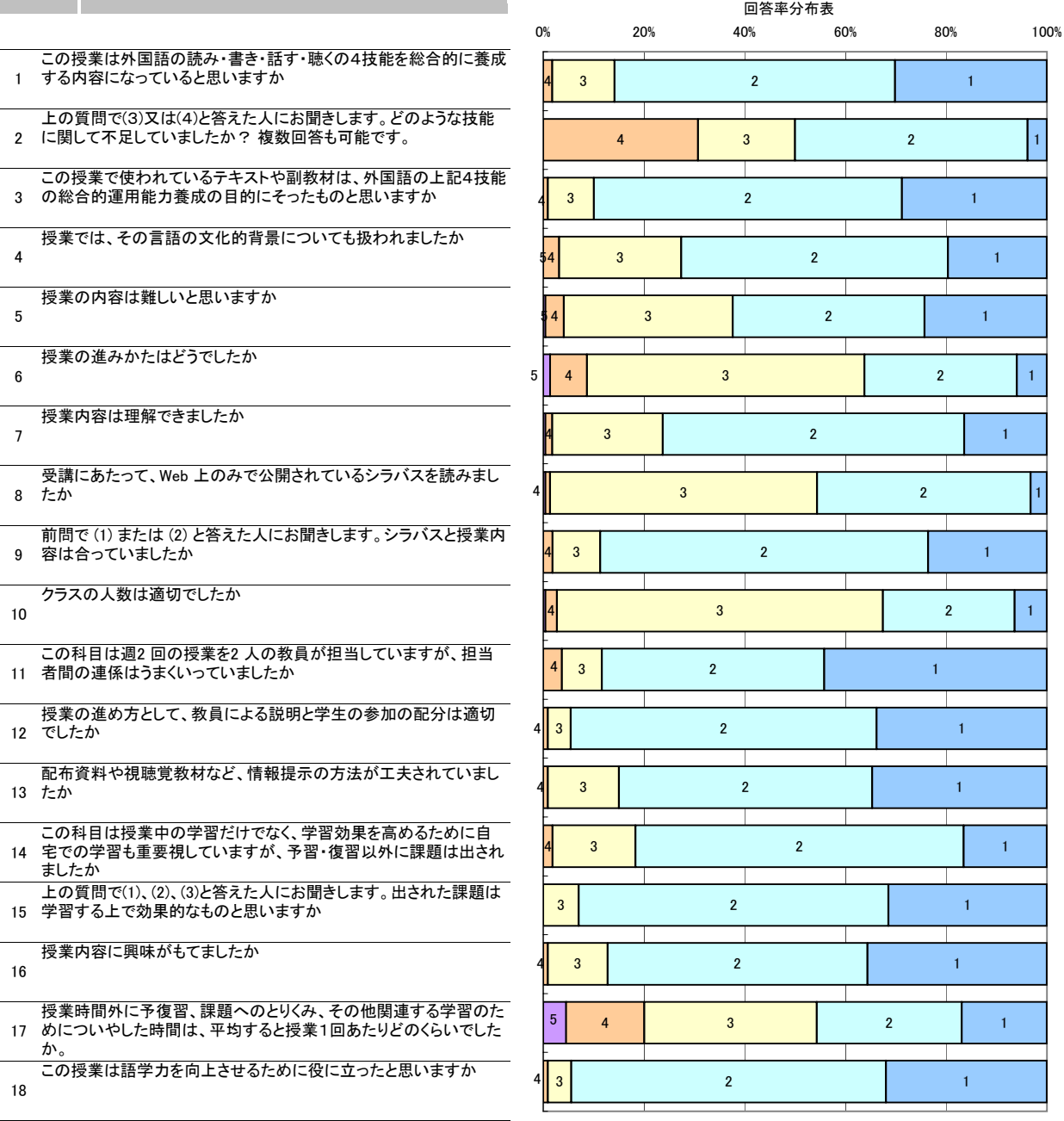
たばかりの一年生であることを考慮すると、改善の余地はあるものの、好ましい傾向にあると言える。

- 問 9 シラバスと授業内容の一致については、肯定的評価が 88.1%と、たいへん好評価である。昨年の 82.5%からやや改善した。
- 問 10 クラスの人数については、5通りの選択肢のうち、「適切」とする学生が 76.6%（昨年 71.9%）で、もっとも多い。「多すぎる」が昨年 5.1%から今年 1.9%、「やや多い」が昨年 19%から今年 16.8%へと減少した。
- 問 11 担当者間の関係については、「とても」あるいは「ある程度」関係がとれているとする肯定的評価（回答 1 および 2）が 89.9%と、きわめて好評価である。昨年の肯定的評価 84.3%からさらに改善した。
- 問 12 教員による説明と学生の参加の配分については、バランスが「とてもよかった」あるいは「ある程度よかった」とする肯定的評価が 95%と、きわめて好評価である。昨年の肯定的評価 89.3%からさらに改善した。
- 問 13 情報提示の方法の工夫については、「よく」あるいは「ある程度」工夫されていたとする肯定的評価は 81.2%を占め、かなり好評価である。昨年の肯定的評価 74.2%からさらに改善した。
- 問 14 授業外の課題が「適度な量」とする回答が 57.5%ともっとも多い。 昨年の同回答 39.8%より大幅に増加した。「多く出た」は昨年 20.1%から 10.5%に減少した。
- 問 15 授業外の課題が「とても」あるいは「ある程度」効果的だったとする肯定的評価（回答 1 および 2）が 88%を占め、たいへん好評価である。昨年の 84.3%からやや改善した。

大分類B2

科目名	Intensive German/French/Spanish/Chinese (Intermediate)
-----	--

回収回答枚数 219枚



注1:アンケート対象学年は、1, 2年生。

注2:回答率は、有効回答数に対する各回答の割合。

注3: 評定平均 = (「5」回答数×5+「4」回答数×4+「3」回答数×3+「2」回答数×2+「1」回答数×1) ÷ (有効回答数)。少数第2位四捨五入。

評定平均	評価分布 (各回答率%)					無効回答数	有効回答数
	5 全くない	4	3	2	1 とてもよい		
1. 86	いいえ	はい				0	219
2. 77	話す	聞く	書く	読む		193	26
1. 82	いいえ	はい				0	219
2. 11	いいえ	はい				0	219
2. 18	易しい	適切	難しい			1	218
2. 68	遅い	適切	早い			1	218
2. 10	いいえ	はい				0	219
2. 53	知らない	読んだ				2	217
1. 90	いいえ	はい				113	106
2. 64	多い	適切	少ない			1	218
1. 71	いいえ	はい				4	215
1. 73	いいえ	はい				0	219
1. 81	いいえ	はい				0	219
2. 04	いいえ	はい				1	218
1. 76	いいえ	はい				6	213
1. 78	いいえ	はい				0	219
2. 62	2日以上	1～2日	30～60分	30分以内	ほぼなし	0	219
1. 75	いいえ	はい				3	216

注4:「いいえ——はい」は、「否定的——肯定的」回答を総称したもの。

例:「まったくできなかった-あまりできなかった-ある程度できた-よくできた」

注5:ブランクの部分は回答を設けていない。

大分類B2 結果分析

この分類に属するのは、英語以外の Intensive (Intermediate) と名のつく 2 年生対象の授業である。

科目名：Intensive German/French/Spanish/Chinese (Intermediate)

この分類は、昨年とは対象科目が一部ことなるため精確な比較とはならないものの、目安としてみるため、以下では昨年の同じ質問との比較も行なった。

◆ 授業の成果について（問 7、16～18）

- 問 7 授業内容を理解できたかという質問。肯定的評価（回答 1「よく理解できた」および 2「ある程度理解できた」）があわせて 81.7% と好评価である。昨年の同じ質問に対する肯定的評価が 70.5%であったのにくらべ、大幅に改善した。
- 問 16 授業内容に興味がもてたかという質問。肯定的評価（回答 1「とても興味もてた」および 2「ある程度興味もてた」）は 87.2%。昨年の 68.9%から大幅に改善した。
- 問 17 今年度新設の質問。回答は分散しているが、もっとも多かった授業 1 回あたりの自学自習の時間は「30 分～1 時間」で 34.2%、一方で「ほとんどしなかった」も 16.9%にのぼる。授業時間の 2 倍の時間を自学自習についやすという単位計算の建て前からはほど遠い。
- 問 18 授業が語学力向上に役立ったかという質問。肯定的評価（回答 1「とても役に立った」および 2「ある程度役に立った」）があわせて 94.4%ときわめて大きな率を占める。昨年の 75.6%から大幅に改善した。

◆ 授業の内容について（問 1～2、4～6）

- 問 1 肯定的評価（回答 1「4 技能をバランスよく養成する授業だった」および 2「ある程度バランスよく養成する授業だった」）が 85.8%。昨年の 65.9%から大幅に改善した。
- 問 2 問 1 で否定的評価をした人（14.1%）のみが回答する質問。意外にも「書く」がもっとも多い。昨年は「話す」がもっとも多かったが、それをふまえて、学生に外国語を発する練習をふやしたことで、問 1 での肯定的評価につながり、この質問に回答した層が減少した結果であると思われる。
- 問 4 肯定的評価（回答 1「言語の文化的背景が十分扱われた」および 2「ある程度扱われた」）は 72.6%。昨年の 68.8%よりわずかながら改善した。
- 問 5 授業の難易度について、5 通りの選択肢のうち、「やや難しかった」とする学生が 38.1%ともっとも多い。「難しかった」とあわせると 63.1%（昨年の同部分の合計 62.4%とほとんど変わらない）。しかし、学生が「適切」と感じる難易度が、かならずしも教育的にも「適切」であるとは限らないことを考えると、過度に難しい授業とはいえない程度にとどまっていると考えられる。
- 問 6 授業の進度については、5 通りの選択肢のうち、「適切」（55%）とこたえる学生がもっとも多い。この回答が昨年の 51.7%より増加した。

◆ 授業の方法について（問 3、8～15）

- 問 3 教材に対する肯定的評価（回答 1 およ び 2）は 90%という高い率にのぼる。昨年の 69.2%から大幅に改善した。

- 問 8 Web シラバスを「見ていない」「存在さえ知らない」という回答はあわせても 1.4%しかなく、ほとんど全員が読んでいる。昨年の同部分の合計が 63.1%もあったのとくらべると、劇的な減少である。Web シラバスが急速に普及したことがうかがえる。
- 問 9 シラバスと授業内容との一致については、肯定的評価（回答 1 および 2）が 88.7%を占め、好評価である。昨年の 81%からさらに改善した。
- 問 10 クラスの人数に関しては、5通りの選択肢のうち、「適切」とする学生が 64.7%で、もっとも多い。ただ、昨年「適切」と答えた学生が 76.1%であったのとくらべると後退し、「多すぎる」が昨年 4.3%から今年 6.4%、「やや多い」が昨年 13.5%から今年 26.1%へといずれも増加した。これは、学年全体の学生数が昨年の 2 年生より増加し、1 クラスあたりの人数も増えた現実に対応している。
- 問 11 担当者間の連携については肯定的評価（回答 1 および 2）が 88.4%を占め、好評価である。昨年の肯定的評価 77%から改善した。
- 問 12 教員による説明と学生の参加の配分に関しては、肯定的評価（回答 1 および 2）が 94.5%とたいへん好評価である。昨年の肯定的評価 87.3%からさらに改善した。
- 問 13 情報提示の方法の工夫に関しては、肯定的評価（回答 1 および 2）は 84.9%を占め、好評価である。昨年の肯定的評価 72.4%から改善した。
- 問 14 授業外の課題を「適度な量」とする回答が 65.1%ともっとも多い。昨年の同回答 46.2%より増加した。「多く出た」は昨年 30.8%から 16.5%に減少した。少ない授業数をおぎなう意味でも、つねに課題をあたえつづけることは重要であるので、この程度の割合で「多い」と感じられていることは決して悪いことではないと考えられる。
- 問 15 授業外の課題に対する肯定的評価（回答 1 「とても効果的」および 2 「ある程度効果的」）が 93%を占め、たいへん好評価である。昨年の 84.8%からさらに改善した。

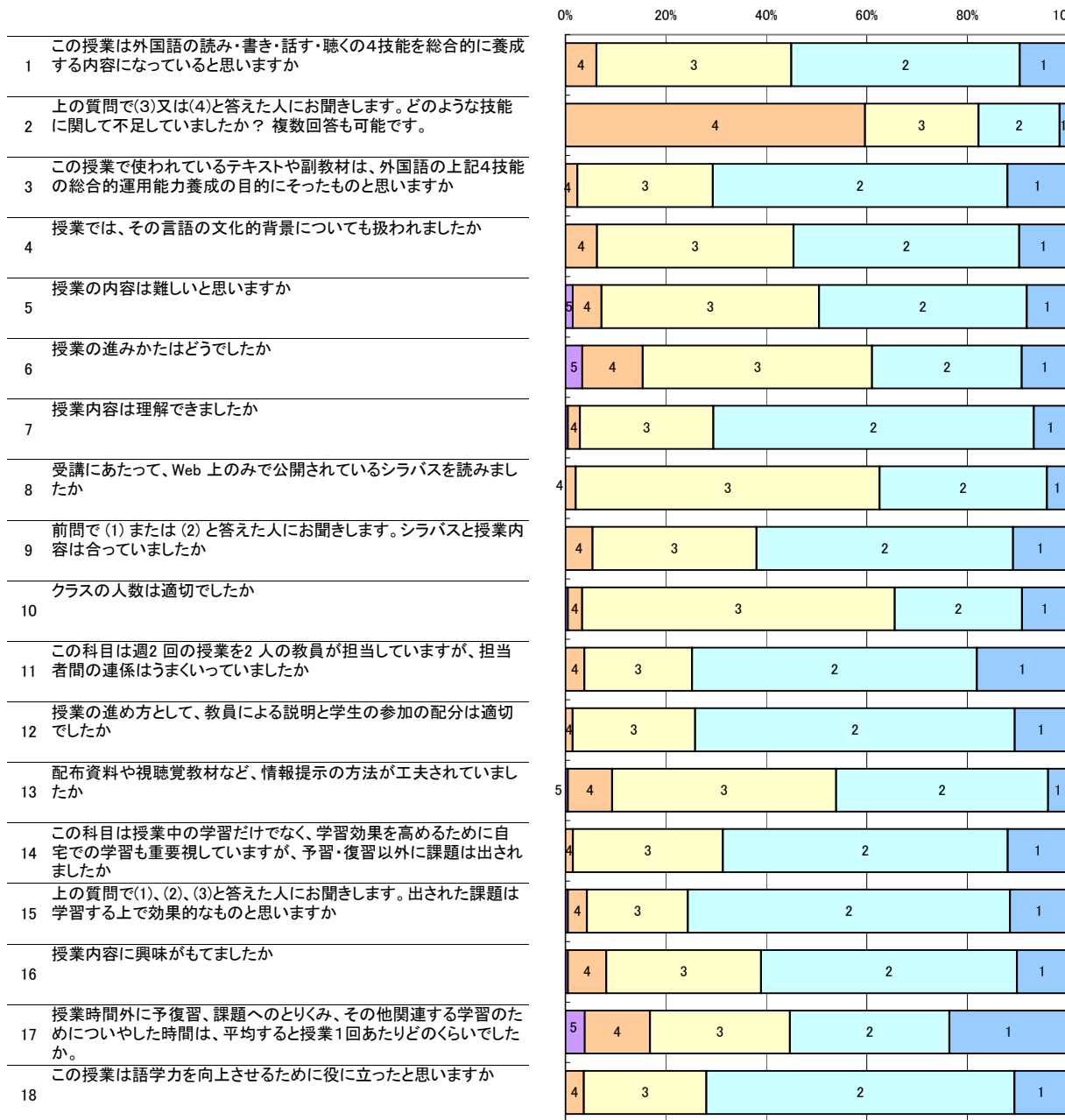
大分類B3

科目名 Intensive English (Intermediate)

回収回答枚数

211枚

回答率分布表



注1:アンケート対象学年は、1, 2年生。

注2:回答率は、有効回答数に対しての各回答の割合。

注3:評定平均=(「5」回答数×5+「4」回答数×4+「3」回答数×3+「2」回答
数×2+「1」回答数×1)÷(有効回答数)。少数第2位四捨五入。

評定平均	評価分布(各回答率%)					無効回答 数	有効回答 数
	5 全くない	4	3	2	1 とてもよい		
2. 42	いいえ	はい					
	6. 2	38. 8	45. 5	9. 6		2	209
3. 40	話す	聞く	書く	読む			
	59. 7	22. 6	16. 1	1. 6		149	62
2. 20	いいえ	はい					
	2. 4	26. 9	58. 7	12. 0		3	208
2. 42	いいえ	はい					
	6. 3	39. 1	44. 9	9. 7		4	207
2. 51	易しい	適切	難しい				
	1. 4	5. 8	43. 3	41. 3	8. 2	3	208
2. 71	遅い	適切	早い				
	3. 4	12. 0	45. 7	29. 8	9. 1	3	208
2. 26	いいえ	はい					
	0. 5	2. 4	26. 6	63. 8	6. 8	4	207
2. 61	知らない	読んだ					
	2. 1	60. 5	33. 3	4. 1		16	195
2. 33	いいえ	はい					
	5. 4	32. 6	51. 1	10. 9		119	92
2. 60	多い	適切	少ない				
	0. 5	2. 9	62. 2	25. 4	9. 1	2	209
2. 11	いいえ	はい					
	3. 8	21. 4	56. 7	18. 1		1	210
2. 17	いいえ	はい					
	1. 4	24. 4	63. 6	10. 5		2	209
2. 60	いいえ	はい					
	0. 5	8. 8	44. 6	42. 2	3. 9	7	204
2. 21	いいえ	はい					
	1. 5	29. 9	56. 7	11. 9		10	201
2. 18	いいえ	はい					
	0. 5	3. 8	20. 1	64. 1	11. 5	2	209
2. 38	いいえ	はい					
	0. 5	7. 7	30. 8	51. 0	10. 1	3	208
2. 42	2日以上	1～2日	30～60分	30分以内	ほぼなし		
	3. 8	13. 0	27. 9	31. 7	23. 6	3	208
2. 21	いいえ	はい					
	3. 7	24. 3	61. 4	10. 6		22	189

注4:「いいえ——はい」は、「否定的——肯定的」回答を総称したもの。

例:「まったくできなかった-あまりできなかった-ある程度できた-よくできた」

注5:ブランクの部分は回答を設けていない。

大分類 B 3 結果分析

この分類に属するのは、2 年生対象の Intensive English (Intermediate) である。

◆ 授業成果について（問 7、問 16～18）

問 7 授業内容を「よく理解できた」あるいは「ある程度理解できた」とする肯定的評価は 70.6%。昨年 of 他言語を含めての数値 70.5% とほぼ同じで、おおむね肯定的である。

問 16 授業内容に「とても興味をもてた」「ある程度興味を持てた」という肯定的評価は 61.1%。英語以外の言語 IM では 87.2%。初修言語クラスでは当該言語圏の文化的背景への言及が学生の興味を喚起したようだが、英語クラスではそのような要素が乏しかった可能性がある。

問 17 授業時間外学習時間は「ほとんどしなかった」と「30 分以内」の合計が 55.3%に達する。英語以外の言語は 45.7%。いずれも憂慮される状況である。

問 18 授業が語学力向上に「とても役に立った」「ある程度役に立った」とする肯定的評価が 72.0%を占め、おおむね好評である。ただ肯定的評価の数値が高いクラス(最高 93.3%)がある一方、肯定的評価がないクラスもあり大差がある。英語以外の言語では肯定的評価が 94.4%にのぼり英語とかなり差が見られる。

◆ 授業内容について（問 1～2、問 4～6）

問 1 4 技能をある程度以上にバランス良く養成するとする肯定的評価（回答 1 および 2）は 55.1%。昨年 of 他言語を含めての数値 62.4% より減じている。

問 2 問 1 で否定的評価をした人（45.0%）のみが解答する質問。「話す」が不足しているとする回答が 59.7%に達する。いかに対応していくか検討課題である。

問 4 言語の文化的背景が十分あるいはある程度扱われたとする肯定的評価が 54.6%。他言語の 72.6%と大差がある。これは初修言語学習の特性から来る数値の差が考えられる他、英語が世界言語である現状から、テキストが取り上げる内容が英米文化のみではなくなったことも一要因であろう。

問 5 授業内容が「とても難しかった」8.2%「やや難しかった」41.3%を合せると 49.5%。「適切であった」43.3%をやや上回る。しかし「適切であった」の数値に「やや易しかった」「とても易しかった」を合せると 50.5%となる。テキストが変わりレベルが上がったが難易度はまずはバランスが取れていると考えられる。

問 6 授業進度が「適切であった」が 45.7%で一番多く、「やや早かった」が 29.8%、「やや遅かった」が 12%と続く。

◆ 授業方法について（問 3、8～15）

問 3 テキストや副教材に対する肯定的評価が 70.7%を占めた。

問 8 Web シラバスの「存在は知っていたが、見たことはない」が 60.5%にのぼる。「少し読んだ」33.3%が続く。

問 9 シラバスと授業内容の一致について は、肯定的評価は 62.0%に留まる。

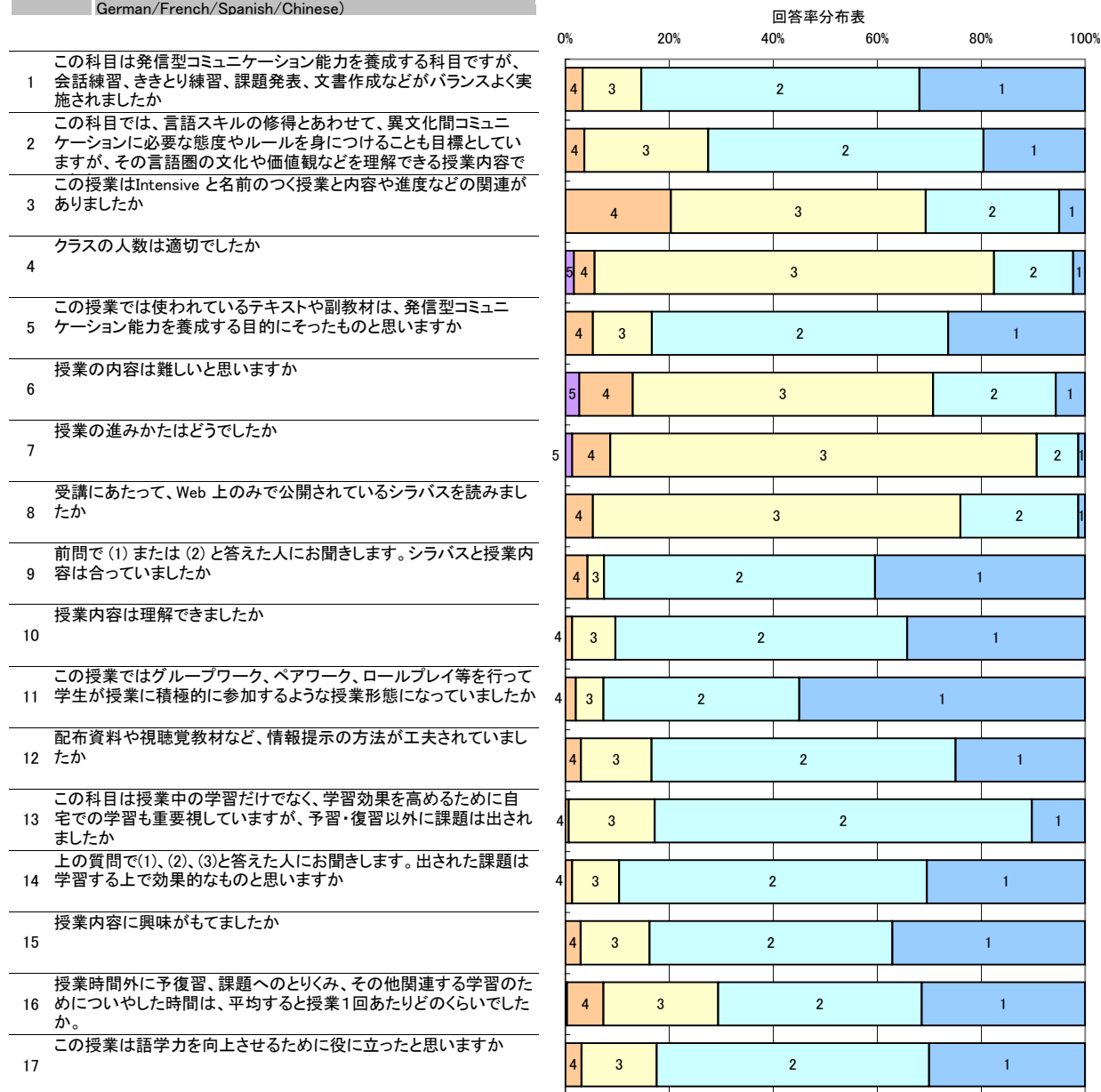
- 問 10 クラスの人数については「適切である」が 62.2%、「やや多い」25.4%、「多すぎる」が 9.1%と続く。他言語を含めた昨年の数値と比較すると、「適切である」は 76.1%から大幅に減少。「やや多い」は昨年 13.5%の倍近い増加、「多すぎる」も昨年 4.4%の 2 倍を超える。クラス的人数が昨年より増えた結果と考えられる。
- 問 11 担当者間の関係は「とても」あるいは「ある程度関係がとれていた」とする肯定的評価が 74.8%。おおむね好評価と言える。ただし、関係が良いと評価されたクラスの総合的満足度が高いとは限らない。関係が進度の調整に留まり、週 2 回の授業が効果をあげていない可能性が考えられる。
- 問 12 教員による説明と学生参加の配分は、バランスが「とてもよかった」または「ある程度よかった」とする肯定的評価が 74.1%を占める。
- 問 13 情報提示の方法の工夫については、「よく」あるいは「ある程度」工夫されていたとする肯定的評価が 46.1%で、英語以外の言語の 84.9%に比べてかなり低い。問 16 と傾向が似ており、授業の工夫がさらに求められている。
- 問 14 予習・復習以外の課題については「適度な量の課題が出された」が 56.7%。「課題はあまり出されなかった」29.9%、「多くの課題が出された」11.9%が続く。
- 問 15 問 14 で課題が出されたとする回答中、予習・復習以外の課題が「とても」または「ある程度」効果的だったとする肯定的評価が 75.6%を占める。

クラス間のばらつきは、全体的には極端ではないが項目によっては大差がある。また、学生の勉強意欲の差がアンケート結果にも読み取れ、学生の意欲を高める授業の工夫、2 人の担当者による週 2 回授業の効果的展開について検討を重ねる余地があると思われる。

大分類C1

科目名 English Communication, Communicative German/French/Spanish/Chinese)

回収回答枚数 305枚



注1:アンケート対象学年は、1, 2年生。

注2:回答率は、有効回答数に対する各回答の割合。

注3:評定平均=(「5」回答数×5+「4」回答数×4+「3」回答数×3+「2」回答数×2+「1」回答数×1)÷(有効回答数)。少数第2位四捨五入。

評定平均	評価分布(各回答率%)					無効回答数	有効回答数
	5 全くない	4	3	2	1 とてもよい		
1.86		いいえ _____ はい				4	301
		3.3 11.3 53.5 31.9					
2.12		いいえ _____ はい				3	302
		3.6 23.8 53.0 19.5					
2.85		いいえ _____ はい				5	300
		20.3 49.0 25.7 5.0					
2.87	少ない _____ 適切 _____ 多い	1.7 4.0 76.8 15.2 2.3				3	302
		いいえ _____ はい					
1.96		5.3 11.3 57.0 26.3				5	300
	難しい _____ 適切 _____ 易しい	2.7 10.3 57.8 23.6 5.6				4	301
	遅い _____ 適切 _____ 早い	1.3 7.3 82.0 8.0 1.3				5	300
2.80		知らない _____ 読んだ				5	300
		5.3 70.7 22.7 1.3					
1.79		いいえ _____ はい				205	100
		4.0 9.0 49.0 38.0					
1.77		いいえ _____ はい				4	301
		1.3 8.3 56.1 34.2					
1.54		いいえ _____ はい				5	300
		2.0 5.3 37.7 55.0					
1.95		いいえ _____ はい				4	301
		3.0 13.6 58.5 24.9					
2.08		いいえ _____ はい				3	302
		0.7 16.6 72.5 10.3					
1.81		いいえ _____ はい				6	299
		1.3 9.0 59.2 30.4					
1.82		いいえ _____ はい				3	302
		3.0 13.2 46.7 37.1					
2.06	2日以上	1～2日 30～60分 30分以内 ほぼなし					
	0.3 7.0 22.1 39.1 31.4					6	299
1.91		いいえ _____ はい				15	290
		3.1 14.5 52.4 30.0					

注4:「いいえ---はい」は、「否定的---肯定的」回答を総称したもの。

例:「まったくできなかった-あまりできなかった-ある程度できた-よくできた」

注5:ブランクの部分は回答を設けていない。

C1 (English Communication, Communicative German/French/Spanish/Chinese): Summary of Questionnaire Results

[1] While approximately 85% of students had no complaint about the proportion of attention paid to the various skills (speaking, listening, etc.), the majority (53.5%) considered it satisfactory rather than very good.

[2] A majority of students (53%) were satisfied with the extent to which they had been taught about intercultural communication. However, it is noteworthy that the number of those who expressed some dissatisfaction (23.8%) slightly exceeds the number of those who expressed strong satisfaction (19.5%).

[3] Almost 50% of students did not consider that their communication course related well to the intensive course. This could indicate that the possibility of designing a more closely integrated intensive and communicative course should be considered.

[4] The degree of satisfaction with the size of classes is very good (82%). Those who thought the classes too large or too small are almost equal in number.

[5] & [12] Overall, evaluation of the textbook, handouts and visual materials was positive. Almost 60% of students were satisfied, and about a quarter of them were positively impressed. The results for these questions are very similar.

[6], [10] & [15] While 57.8% of students felt that the level of difficulty of the content was appropriate, the number of those who thought it too difficult exceeds that of those who thought it too easy. About the same number (56.1%) reported that they could understand the content of the course satisfactorily. Just under a half (46.7%) thought that the content of the class was somewhat interesting, and just over a third found it very interesting. The level of interest shown in classes taught by native teachers of Spanish, German and Chinese was notably higher than the average for all communication courses.

[7] A large majority of students (82%) felt that the pace of the class was good. The rest are almost evenly divided in opinion.

[8] & [9] It is significant that 70% of students did not check the syllabus carefully, although they were aware of its being available on the Web. This calls the reliability of the answers to question 9, where a significant number (38%) answered that the actual course matched the syllabus very well, somewhat into question. These results could indicate that teachers should direct more attention to the course syllabus during the first class meeting.

[11] A majority of 55% reported that students participated actively in groupwork, pairwork and other forms of interaction. 37.7% confirmed that they did so somewhat.

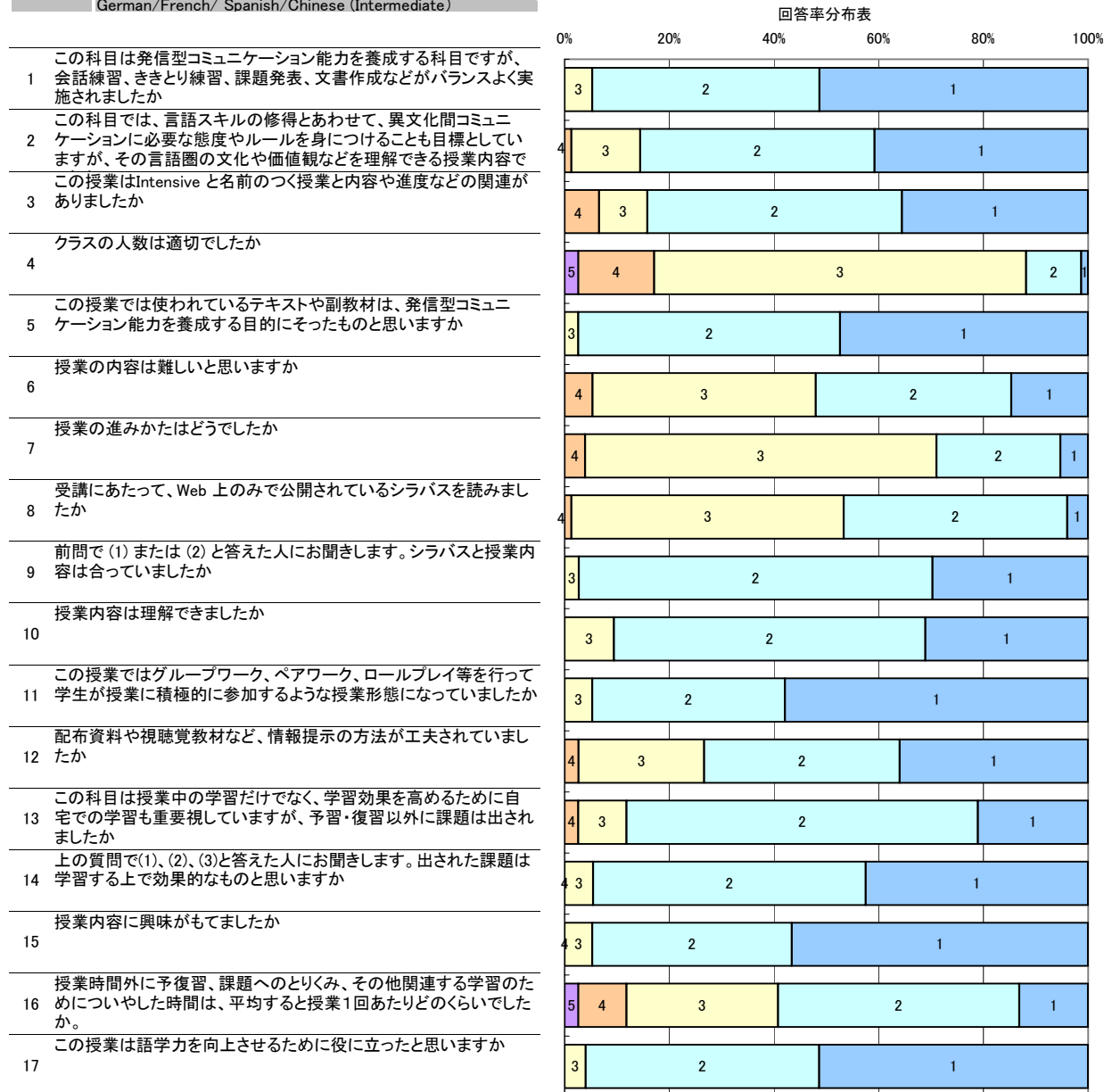
[13], [14] & [16] A large majority (72.5%) thought that the amount of homework was proper, although almost 70% said that they spent less than an hour on homework each week, with almost a third spending less than 30 minutes. Perhaps teachers have not been demanding enough of the students in this respect, or that students do not expect/are not motivated to do much study outside of class. Of those who considered that a proper amount or more homework was given, almost 90% thought it was either somewhat helpful or very helpful.

[17] Overall, 30% of students considered that communication courses did indeed help develop their language skills, while just over a half thought they had somewhat done so. Nevertheless, the percentage of those who thought it had not, or had not particularly, helped (a total of 17.6%) is somewhat disappointing. This applies more to the English than the German, French, Spanish and Chinese communication courses, as the latter group received slightly more positive feedback on this question.

大分類C2

科目名 English Communication (Intermediate), Communicative German/French/ Spanish/Chinese (Intermediate)

回収回答枚数 77枚



注1:アンケート対象学年は, 1, 2年生。

注2:回答率は, 有効回答数に対しての各回答の割合。

注3:評定平均=(「5」回答数×5+「4」回答数×4+「3」回答数×3+「2」回答数×2+「1」回答数×1)÷(有効回答数)。少数第2位四捨五入。

評定平均	評価分布(各回答率%)					無効回答数	有効回答数
	5 全くない	4	3	2	1 とてもよい		
1.54	いいえ _____ はい					1	76
1.75	0 5.3 43.4 51.3					1	76
	いいえ _____ はい						
1.87	1.3 13.2 44.7 40.8						
	いいえ _____ はい						
3.07	6.6 9.2 48.7 35.5					1	76
	少ない _____ 適切 _____ 多い						
1.55	2.6 14.5 71.1 10.5 1.3					1	76
	いいえ _____ はい						
2.39	0 2.6 50.0 47.4					1	76
	難しい _____ 適切 _____ 易しい						
2.70	0 5.3 42.7 37.3 14.7					2	75
	遅い _____ 適切 _____ 早い						
2.51	0 3.9 67.1 23.7 5.3					1	76
	知らない _____ 読んだ						
1.73	1.3 52.0 42.7 4.0					2	75
	いいえ _____ はい						
1.78	0 2.7 67.6 29.7					40	37
	いいえ _____ はい						
1.47	0 9.5 59.5 31.1					3	74
	いいえ _____ はい						
1.93	0 5.3 36.8 57.9					1	76
	いいえ _____ はい						
1.93	2.7 24.0 37.3 36.0					2	75
	いいえ _____ はい						
1.63	2.6 9.2 67.1 21.1					1	76
	いいえ _____ はい						
1.49	0 5.5 52.1 42.5					4	73
	いいえ _____ はい						
2.42	0 5.3 38.2 56.6					1	76
	2日以上 1～2日 30～60分 30分以内 ほぼなし						
1.53	2.6 9.2 28.9 46.1 13.2					1	76
	いいえ _____ はい						
	0 4.1 44.6 51.4					3	74

注4:「いいえ---はい」は,「否定的---肯定的」回答を総称したものの。

例:「まったくできなかった-あまりできなかった-ある程度できた-よくできた」

注5:ブランクの部分は回答を設けていない。

C2: English Communication (Intermediate), Communicative German/French/Spanish/Chinese (Intermediate) Summary of Questionnaire Results

[1] It appears, overall, that the students perceived a good balance of skills taught in the course, with 51.3% expressing strong satisfaction and 43.4% expressing satisfaction.

[2] Over 85% of students were satisfied that sufficient emphasis had been placed on developing cultural awareness, with almost 41% thinking very much so. In light of this response, the Intermediate course would seem to offer more in this area than Communication I and II.

[3] Most students (almost 85%) thought that the course related well to the intensive course, with just over a third (35.5%) saying that it complemented it very well.

[4] The overall response to the size of the class was positive, with 71.1% of students considering the class size to be perfect.

[5] and [12] It is noteworthy that almost all students (97.4%) thought that textbooks and other materials used in the course were either very suitable or somewhat suitable. However, the percentage of those who thought the teacher presented materials in an interesting or somewhat interesting way is rather less (73.3%). This means that over a quarter of students thought that their teacher did not succeed in doing so.

[6], [10] & [15] Overall, students thought that the content was more challenging than not, although 42.7% judged the level of difficulty to be appropriate. It follows that a majority of almost 60% stated that they could 'somewhat' understand the content of the class. Most students (almost 95%) considered the content to be either somewhat or very interesting, with the majority (56.6%) considering it very interesting.

[7] A majority of 67.1% felt that the pace of the class was perfect, with most of the rest considering it on the fast side.

[8] & [9] 52% of students knew about the syllabus being available on the Web but did not look at it, and most of the rest (42.7%) consulted it a little. The very small percentage of those who looked at it carefully (only 4%) is cause for concern. Of those (less than 50%) who looked at it at all, most (67.6%) judged that the course matched its syllabus 'somewhat', and almost 30% judged that it matched it well.

[11] 57.9% reported that the course incorporated groupwork, pairwork, etc., that students could enthusiastically participate in, with most of the rest stating that it did so somewhat.

[13], [14] & [16] The majority of students (67.1%) thought that a proper amount of homework was given, with most of the rest (21.1%) thinking that a lot was given. Among these groups of students, combined, almost 95% were satisfied that the homework was either somewhat helpful or very helpful (52.1% and 42.5% respectively). Almost half the students said that they had spent between 30 minutes and one hour on homework each week, while most of the rest (28.9%) said they spent between one and two hours.

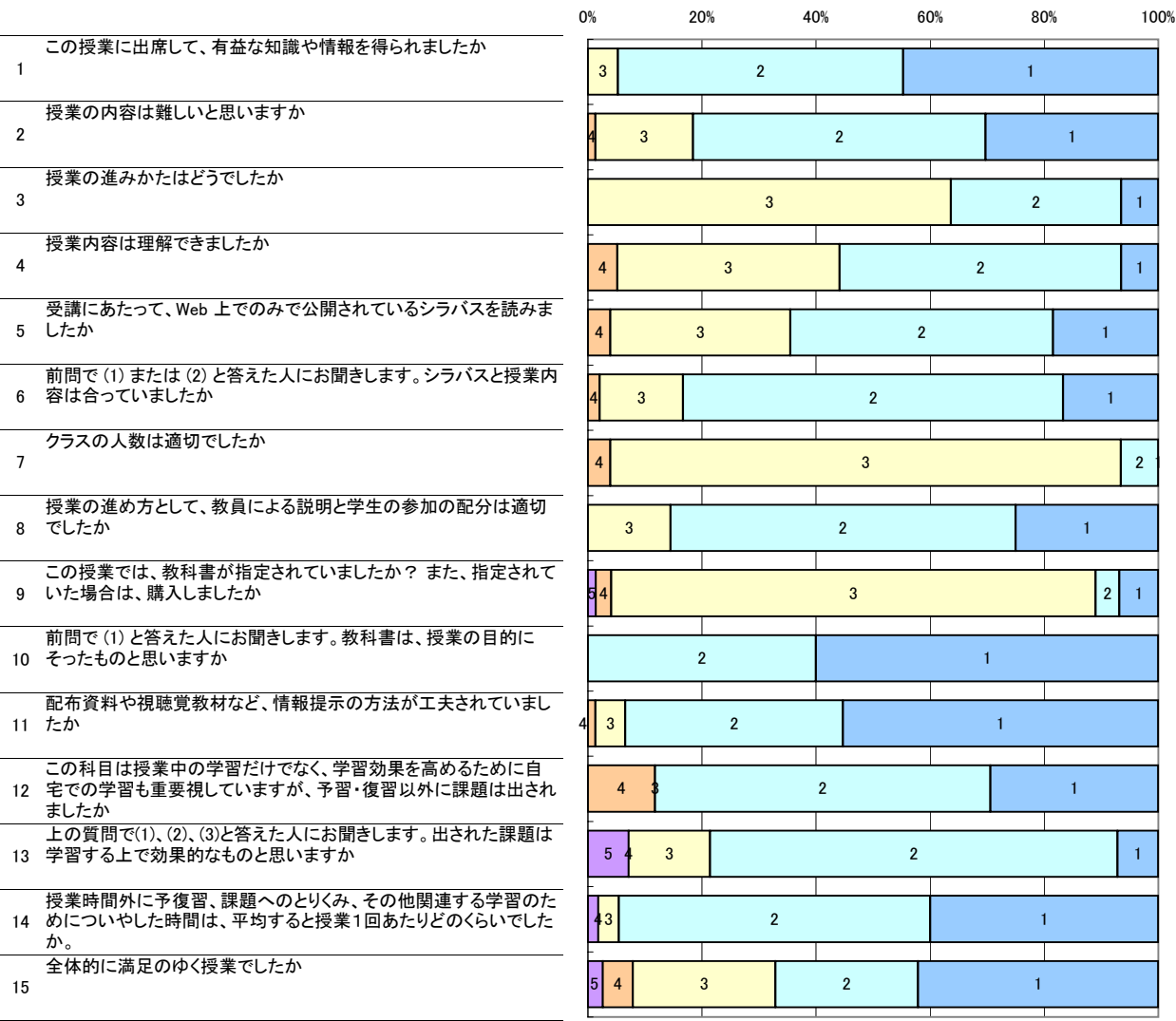
[17] Overall opinion as to how helpful the course was is encouraging, with just over half the students stating that it was very helpful in improving their language skills, and most of the rest (44.6%) stating that it was somewhat helpful. Nobody thought it was not at all helpful. Spanish teachers scored particularly well.

大分類D

科目名 English Grammar, Listening Skills (Intermediate), Speech Clinic

回収回答枚数 78枚

回答率分布表



注1: アンケート対象学年は、1, 2年生。

注2: 回答率は、有効回答数に対しての各回答の割合。

注3: 評定平均 = (「5」回答数×5+「4」回答数×4+「3」回答数×3+「2」回答
数×2+「1」回答数×1) / (有効回答数)。少数第2位四捨五入。

評定平均	評価分布 (各回答率%)					無効回答 数	有効回答 数
	5 全くない	4	3	2	1 とてもよい		
1. 61	いいえ	はい					
	0	5. 3	50. 0	44. 7		2	76
1. 89	易しい	適切	難しい				
	0	1. 3	17. 1	51. 3	30. 3	2	76
2. 57	遅い	適切	早い				
	0	0	63. 6	29. 9	6. 5	1	77
2. 43	いいえ	はい					
	5. 2	39. 0	49. 4	6. 5		1	77
2. 21	知らない	読んだ					
	3. 9	31. 6	46. 1	18. 4		2	76
2. 02	いいえ	はい					
	2. 1	14. 6	66. 7	16. 7		30	48
2. 97	少ない	適切	多い				
	0	3. 9	89. 5	6. 6	0	2	76
1. 89	いいえ	はい					
	0	14. 5	60. 5	25. 0		2	76
2. 88	わからない	未指定	指定未購入	指定購入			
	1. 4	2. 7	84. 9	4. 1	6. 8	5	73
1. 40	いいえ	はい					
	0	0	40. 0	60. 0		73	5
1. 53	いいえ	はい					
	1. 3	5. 3	38. 2	55. 3		2	76
1. 94	いいえ	はい					
	11. 8	0	58. 8	29. 4		61	17
2. 29	いいえ	はい					
	7. 1	0	14. 3	71. 4	7. 1	64	14
1. 69	2H以上	1～2H	30～60分	30分以内	ほぼなし		
	1. 8	0	3. 6	54. 5	40. 0	23	55
2. 01	いいえ	はい					
	2. 6	5. 3	25. 0	25. 0	42. 1	2	76

注4: 「いいえ---はい」は、「否定的---肯定的」回答を総称したもの。

例: 「まったくできなかった-あまりできなかった-ある程度できた-よくできた」

注5: ブランクの部分は回答を設けていない。

大分類 D 結果分析

1. アンケート対象科目およびクラス数・担当者数・回答者(学生)数 (大分類D)

- ・English Grammar (クラス数1／担当者数1／回答者数計28)
- ・Listening Skills (Intermediate) (クラス数2／担当者数2／回答者数計39)
- ・Speech Clinic (クラス数1／担当者数1／回答者数11)

大分類Dに含まれる科目は、基本的に講義ではなく演習を中心としたスキル系の授業である。このうち、English Grammar は他の科目と比べると講義的な側面も含まれている。

2. 考察

A. 授業成果 (設問1、15)

各授業に対する学生の全体的な認識・評価を表すという意味で最も重要な設問1・設問15の2項目について、今年度は昨年度と比較して興味深い変化が見られた。

設問1 (得られた知識・情報の有益性) では、昨年度の95.2%とほぼ同じ94.7%が「たくさん得た」または「ある程度得た」と回答している。また、残りの5.3%についても昨年同様「あまり得られなかった」という回答のみであり、「全く得られなかった」は一人もいなかった。学生には、授業を通して有益な何かを学んだという実感があるようである。

これに対して、設問15 (全体的満足度) では、「とても満足」または「まあ満足」と肯定的に回答した学生が昨年度は92.9%いたのに対して、今年度は67.1%と大幅に減少している。これに伴い、「あまり満足できない」が25%、「まったく満足できない」も5.3%と、否定的な回答が30.3%に上った (無効回答2.6%)。

注目すべきは、相関性が高いと思われる設問1と設問15において、数字に大きな開きが見られる点である。要するに、「有益な知識・情報を得た」と思っているにもかかわらず、「満足できない」と感じている学生も少なくないということである。これが何を意味するか定かではない。授業方法などの面で満足度が落ちているということも考えられる。例えば、大分類Dにあるようなスキル系の科目において演習に十分な時間が割かれなかったとしたら、「知識は得たけどできるようにはなっていないので不満足」といったこともありえる (設問8参照)。また、学生が授業に求めているものに質的な変化が起こっているという可能性も否定はできないであろう。この点は、継続的に授業アンケートを行っていく中で注意して追っていくべきである。

B. 授業内容（設問2－4）

授業内容についても、昨年度の結果との比較から興味深い変化が見られた。

設問2（授業内容の難易度）では、昨年度の71.5%を10ポイント強上回る81.6%が「とても難しかった」または「やや難しかった」と回答している。また、「適切である」が昨年度は21.9%だったのに対し今年度は17.1%、「とても易しかった」または「やや易しかった」が昨年度6.7%だったのに対し今年度1.3%と、全体的に授業内容が難しかったとの認識が昨年度よりも高くなっている。原因は教師側にも学生側にもあると考えられるが、いずれにしても難易度の設定は授業の質を決定する重要な要素の一つであるため、現状の再評価が必要であろう。

設問3（授業の進度）では、昨年度同様約2/3（63.6%）の学生が「適切であった」と回答している。しかし、あとの約1/3の回答における変化には注意が必要である。「とても速かった」または「やや速かった」という回答が36.4%と昨年度の24.8%を10ポイント以上上回ったことに加え、「とても遅かった」または「やや遅かった」と答えた者は昨年度の8.6%から0%へと減少した。これは、昨年度よりも「速かった」と感じる学生が増えたことを意味している。こうした認識と設問2における授業難易度の評価は関連性があると考えられる。授業難易度を調整する一つの方法として、授業進度を再評価することの有用性が示唆されているといえる。

設問4（理解度）では、「よく理解できた」と「ある程度理解できた」が昨年度の82.9%から55.9%へと大幅に（27ポイント）減少した。これに伴って、「あまり理解できなかった」が15.2%から39.0%へと大幅に、「全く理解できなかった」も1.9%から5.2%へと小幅ながら増加している。これは、昨年度に比べ全体的に授業の理解度が低下したことを意味している。しかし、昨年度の数字には注意が必要である。昨年度は、設問2で難易度が高いという評価が多かったにもかかわらず設問4で理解度が高いという評価も多く、ある意味では難易度と理解度の間に不自然ともいえる比例関係があった。今年度は、これがむしろ自然な反比例の方向へ推移した考えることができる。

それでもなお「難しかった」という81.6%と「理解できた」という55.9%の間には、説明すべき点が残る。「難しい内容も教え方の工夫で理解させることができた」という解釈も可能ではあるが、設問1で「有益な知識・情報が得られた」という学生が94.7%いるのに対して、「理解できた」という回答が40ポイント近く低い55.9%に留まったことを考えると、単純にそうは言えないであろう。設問1で得られた数字の再評価も含めてこの点は考える必要がある。

C. 授業方法（設問5－14）

授業方法については、注目すべき設問を中心に考察を加える。

まず**設問5**（Web上のシラバスを読んだか）では、「存在すら知らない」または「知っていたが見ていない」と回答した学生が昨年度は51.9%であったのに対し、今年度は35.5%と減少している。「少し読んだ」は昨年度の42.3%とほぼ同じ46.1%であるが、「熟読した」とした学生が昨年度の5.8%から18.4%へと増加した。履修する学生による部分は大いであろうが、大分類Dに分類されたスキル系科目を選択する際に、よりWeb上のシラバスを参考にするようになったとも解釈できる。この点も、継続的に

年度ごとの推移を見る必要がある。

設問7（クラス・サイズ）では、昨年度72.1%が「適切であった」と回答したのに対し、今年度は同回答が89.5%へと17.4ポイント上昇している。残りは「やや多すぎる」が6.6%あったのみであり、全体的に適切なクラス・サイズが実現できたと考えられる。しかし、これも履修状況により毎年変わる部分であるため、あくまでも「今年度（学期）は」ということであろう。理想的には、毎学期クラス・サイズをコントロールし保証できることが望ましいが、現実的に利用可能なリソースを考えると、これは必ずしも容易ではない。大分類Dにあるようなスキル系科目は演習が中心となるため、クラス・サイズは重要である。したがって、いかに一定の範囲内に継続的に抑えられるかは重要な課題であろう。

設問8（教員の説明と学生の参加のバランス）では、「とてもよかった」または「ある程度よかった」と答えた学生が昨年度は96.2%いたのに対して、今年度は85.5%と10.7ポイント減少した。これに伴って、「あまりなかった」が昨年度の3.8%から14.5%へと同ポイント上昇した。スキル系の科目では演習が中心となるはずであり、この部分の評価は常に高い水準で維持すべきである。85.5%も決して低い数字ではないが、授業の性格からいって90%を大きく超えるものであってもおかしくないはずである。この部分の評価には常に注意が必要であろう。

設問11（情報提示方法の工夫）では、「よく工夫されていた」または「ある程度工夫されていた」が昨年度の83.5%から93.5%と10ポイント上昇している。この点においてさらに改善が見られたのは、マルチメディアの使用など情報提示方法の工夫が言われる中、評価すべき点であろう。

設問12（授業外課題の量）では、「適当な量だった」が昨年度より12.6ポイント高い58.8%、「多く出された」が12.1ポイント高い29.4%と、全体的に十分な量があったと回答している。一方、これと関連した設問13（授業外課題の質）では、「とても効果的」あるいは「ある程度効果的」と答えた学生が昨年度の87.7%より10.2ポイント低い77.5%に留まっている。

設問14（授業外学習時間）は、昨年度アンケートで「授業への取り組み」として聞いたものであるが、今年度はより具体性を持たせるため、授業外の学習時間を尋ねた。「ほとんどしなかった」が40.0%、「30分以内」が54.5%と、ほとんどの学生が授業外で30分以上は勉強していないことが分かった。ここで注意すべきは設問12・設問13との関係である。設問12では概して十分な量の授業外課題があったとの回答が88.2%と高かったが、これに対して本設問への回答は不釣り合いであると言える。考えられるのは、実際には授業外課題の量が足りていないか、または授業外課題に割く30分という時間に対しては十分（以上）な量であったか、いずれかの可能性であろう。いずれにしても、単に量を増やすというだけでなく、学習習慣をいかにつけるかといったような根本的な対処策が必要であろう。

他の設問については、概ね昨年度と同様以下の傾向が見られた。

- シラバスとの整合性は比較的高い（81.6%；昨年度84.6%） <設問6>
- 教科書が指定された授業では、教科書の妥当性は高い（93.3%；昨年度98.3%） <設問10>

3. 総評

全体的に見て、大分類Dの科目には肯定的な評価が得られたと言える。しかし、昨年度の比較ということ言えば評価が下がっている部分もあり、改善の努力が必要であることは言うまでもない。前年度との比較から明らかになる、または提起される問題も多くあるこ

って、上記AおよびBで指摘した問題点についても、より正確な解釈が可能になっていくものと思われる。

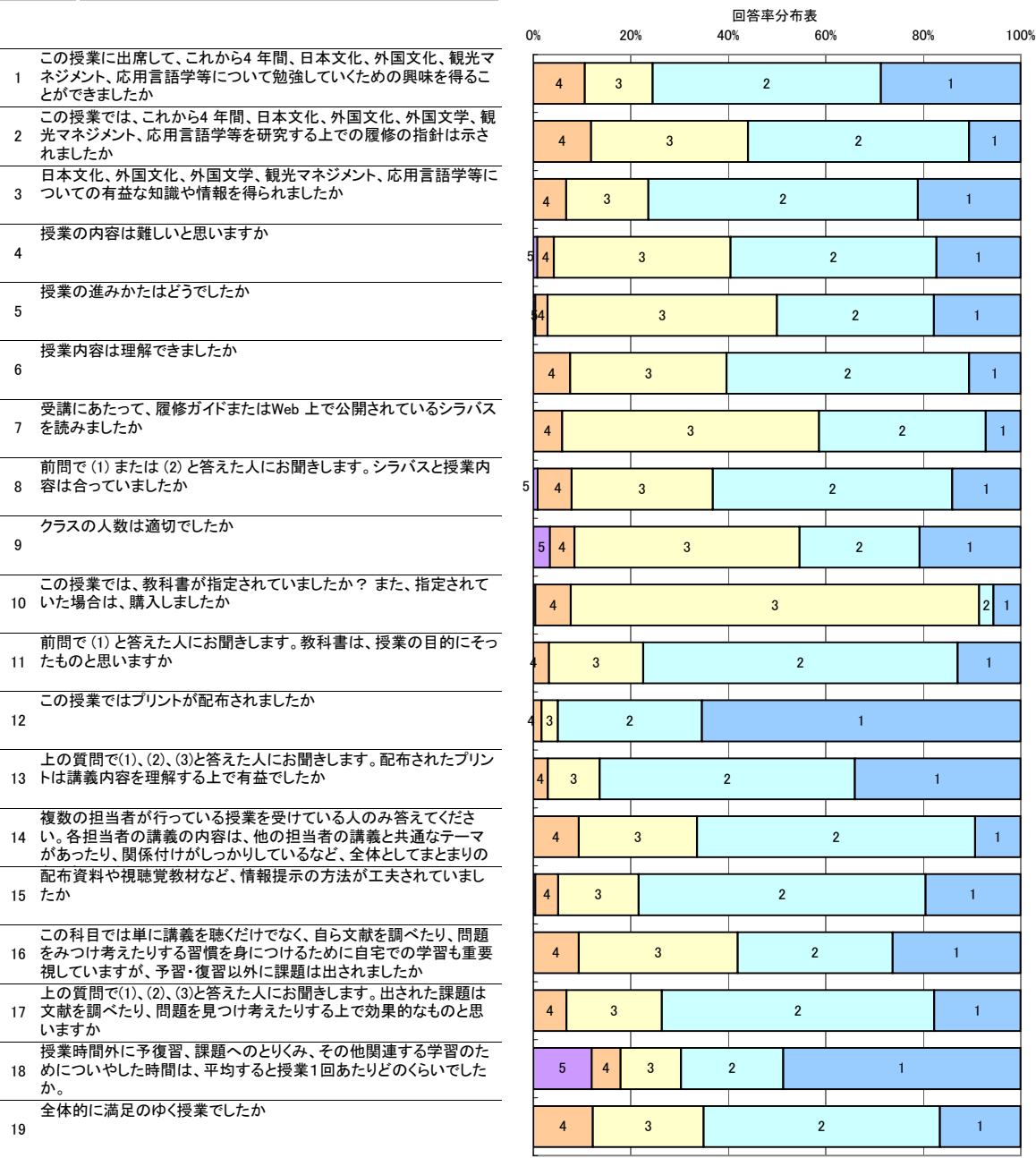
なお、特に上記A（設問1および15）との関係から、来年度の授業アンケートでは「当該授業で習得を目指すスキルが実際に向上したか」を尋ねる質問項目を設けることが有効であると思われる。理想的には客観的な基準を用いるべきであろうが、主観的な判断であっても参考になる設問であると考えられる。

大分類E

科目名 基幹文化系科目

回収回答枚数

238枚



注1:アンケート対象学年は、1, 2年生。

注2:回答率は、有効回答数に対しての各回答の割合。

注3:評定平均＝(「5」回答数×5+「4」回答数×4+「3」回答数×3+「2」回答数×2+「1」回答数×1)÷(有効回答数)。少数第2位四捨五入。

評定平均	評価分布(各回答率%)					無効回答数	有効回答数
	5 全くない	4 -----	3 -----	2 -----	1 とてもよい		
2. 06	10. 5	13. 9	46. 8	28. 7		1	237
2. 45	11. 9	32. 2	45. 3	10. 6		2	236
2. 09	6. 8	16. 9	55. 3	21. 1		1	237
2. 28	0. 8	3. 4	36. 3	42. 2	17. 3	1	237
2. 36	0. 4	2. 5	47. 0	32. 2	17. 8	2	236
2. 37	7. 6	32. 1	49. 8	10. 5		1	237
2. 57	5. 9	52. 7	34. 2	7. 2		1	237
2. 32	0. 9	7. 0	28. 9	49. 1	14. 0	124	114
2. 46	3. 4	5. 1	46. 2	24. 6	20. 8	2	236
2. 94	0. 4	7. 3	83. 8	3. 0	5. 6	4	234
2. 13	3. 2	19. 4	64. 5	12. 9		207	31
1. 41	1. 7	3. 4	29. 5	65. 4		1	237
1. 83	3. 0	10. 6	52. 3	34. 0		3	235
2. 34	9. 4	24. 3	57. 0	9. 4		3	235
2. 08	0. 4	4. 7	16. 5	58. 9	19. 5	2	236
2. 25	9. 3	32. 6	31. 8	26. 3		2	236
2. 15	6. 8	19. 5	55. 9	17. 7		18	220
2. 12	12. 0	6. 0	12. 4	20. 9	48. 7	4	234
2. 31	12. 2	22. 7	48. 5	16. 6		9	229

注4:「いいえ-----はい」は、「否定的-----肯定的」回答を総称したもの。

例:「まったくできなかった-あまりできなかった-ある程度できた-よくできた」

注5:ブランクの部分は回答を設けていない。

大分類E (概説科目) 結果分析

調査対象科目・履修学生数 () 内は昨年の履修数

- | | |
|-----------|-------------|
| 1. 欧米文化概説 | 5 6 (6 1) |
| 2. 欧米文学概説 | 1 4 (6) |
| 3. 中国文化概説 | 1 2 (7) |
| 4. 日本文化概説 | 3 3 (1 8) |
| 5. 観光概説概説 | 8 1 (7 4) |
| 6. 応用言語概説 | 4 2 (8 7) |

総評

◆ 学習興味喚起と方向付け (設問1・2)

概説科目は、1年生を対象とした今後の学習の方向付けと動機付けの役割を持つ科目群であるので、各科目で扱う分野に知的興味を喚起し得たか、また履修の指針を示し得たかというのは、とりわけ重要なポイントである。

興味喚起という点では、75.5%が「とても」ないし「ある程度」興味を持ったと答えた。この項目には一昨年来高い評価が続いている(02年72%、03年75.7%)。ただ今年は、「全く興味を持てなかった」と回答したものが10.5%と、昨年(5.6%)に比べ倍増している。

履修の指針が示されたかどうかについては、55.9%が肯定的な回答をしているが、昨年の69.4%より13.5ポイントも下がっており、一昨年の57.8%よりもさらに低い数字に終わった。「応用言語概説」だけが90.5%という高い評価であるが、他は肯定的／否定的評価がほぼ半々になっており、授業担当者は指導にあたり、これらの科目の位置付けを強く意識する必要があるといえそうである。

◆ 難度・進度・理解度 (設問4～6)

授業難度に関しては、昨年度とそう大きな変化はなかった。ほとんどの学生が「適切」か「難しい」を選んでおり、「易しい」と答えた者は非常に少ない。「とても」ないし「やや」難しいとする割合が多いのは「欧米文化概説」と「応用言語概説」で70～80%、「適切」が多いのが「中国文化概説」と「日本文化概説」で70%弱である。

進度(早さ)については、ほとんどの科目で「適切」と「やや早い」が大部分を占めているが、「欧米文化概説」は「やや」も含め「早い」と感じている学生が80%であった。

理解度に関しては、全体として65.5%の学生が「よく」または「ある程度」理解できたとしている(昨年度58%)。総じて難しいと答えた学生の多い科目の理解度が低く、「適度」ないし「易しい」が大半を占めた科目の理解度が高いのは予想通りであるが、「応用言語概説」が難度が高いにもかかわらず、73.8%の学生が理解できたと答えているのが注目される。一方、「あまり」ないし「全然」理解できなかったと答えた学生の割合であるが、「欧米文学概説」と「観光概説」で半数を超えており、扱われる内容の性質などの要因もあろうが、概説科目群のカリキュラムの中での位置づけを考えると、やはり何らかの対策が必要ではないかと思われる。

◆ 教材・授業方法・学生の取り組み（設問 10～18）

教科書は「中国文化概説」以外指定はなかったようであるが、各科目で毎回ないかなりの頻度でプリントが配布されており、95%の学生が授業理解の上でプリントが有益だったと答えている。

概説科目は、基本的に複数担当者によるオムニバス形式で行われているが、各担当者間の講義内容に関連づけがあったかどうか、全体としてまとまっていたかどうかの質問に対しては、66.4%が肯定的評価を下している。

予復習以外に課題が出されたかどうかについては、「多くの」または「適度の」課題が出されたとする割合が、「欧米文化概説」（90.9%）、「応用言語概説」（85.7%）などでは高く、課題がかなり出されているが、「欧米文学概説」は 7.1%とほとんど出されていないようである（去年は課題を出していた科目は半数であった）。課題が効果的であったかどうかという質問に対しては、課題を出した授業のすべてで 80%前後が「とても」あるいは「ある程度」効果的であったと回答している。

授業時間外の学習に費やした時間（授業 1 回あたり）については、出された課題の量にほぼ比例して多くなっているように見受けられる。すなわち課題の少なかった「欧米文学概説」、「中国文化概説」、「観光概説」などでは、「ほとんど何もしなかった」と答えた学生が 60～70%に上る一方、課題の多かった「欧米文化概説」では 37%が「2 時間以上」と答えている。ここから見るに、課題を与えない限りほとんど授業外学習をしない、というのが、残念ながら実態のようである。

◆ 授業の成果・満足度（設問 3・19）

有益な知識や情報を得られたかという質問に対しては 76.4%が肯定的回答であり、全体としてはほぼ昨年（77%）並である。肯定的評価の割合は科目によって 62.6%から 91.7%と大きなバラツキがある。昨年との比較でいうと、「応用言語概説」が 71.2%から 90.5%と大きく評価を上げているが、その他の科目は数%ながら軒並み評価を下げている。

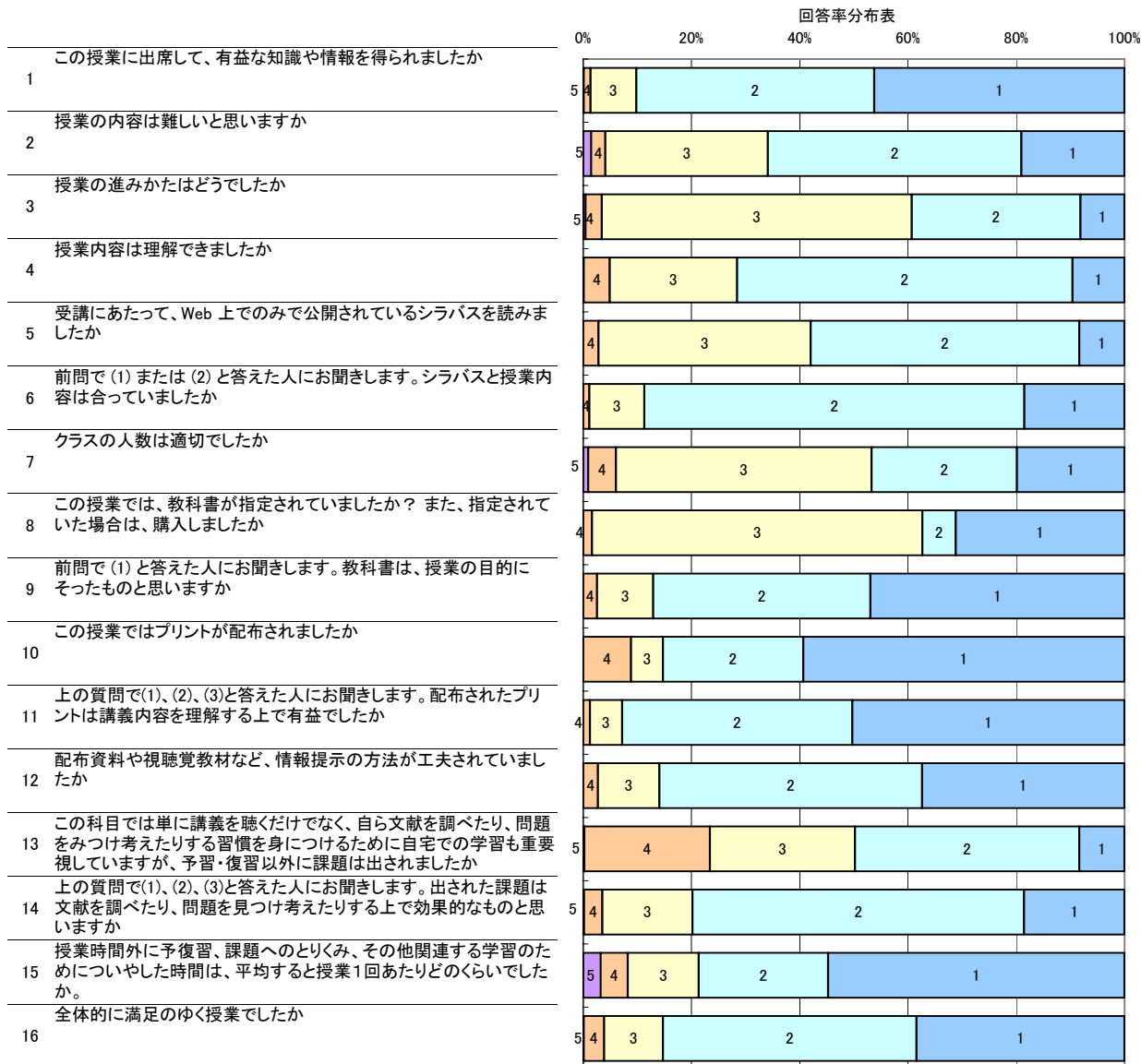
授業に対する総合評価の「満足度」については、肯定的評価が 65.1%と、昨年の 73.1%を大きく下回り、一昨年の水準に戻った。昨年もそうであったが、満足度の評定平均値 2.31 は他のジャンル 1.53～2.22 に比べて一番低い（1.0 が最高値）。ただ、それぞれの科目ごとの評価を見てみると、肯定的評価が 42.1%から 91.6%まで、かなりのバラツキがある。昨年と比較すると、「中国文化概説」と「応用言語概説」が数%ながら評価を上げているが、その他は下がっており、特に下げ幅が大きかったのは「欧米文学概説」と「観光概説」であった。

満足度の回答結果を各科目別にまとめてみると、理解度とほぼ同じ結果になる。これが直ちに因果関係を示すものではないにしても、相関関係が示唆されているとすれば、導入科目という性格をも考え合わせ、よりわかりやすい授業を心がける工夫が必要だと言えるであろう。

大分類F

科目名 基幹文化系科目および文化メジャー科目

回収回答枚数 888枚



注1:アンケート対象学年は、1, 2年生。

注2:回答率は、有効回答数に対しての各回答の割合。

注3:評定平均=(「5」回答数×5+「4」回答数×4+「3」回答数×3+「2」回答数×2+「1」回答数×1)÷(有効回答数)。少数第2位四捨五入。

評定平均	評価分布(各回答率%)					無効回答数	有効回答数
	5 全くない	4	3	2	1 とてもよい		
1.65	いいえ				はい	14	874
2.21	易しい		適切		難しい	12	876
2.56	遅い		適切		遅い	13	875
2.24	いいえ				はい	12	876
2.37		知らない			読んだ	15	873
1.94		いいえ			はい	358	530
2.40	少ない		適切		多い	13	875
2.33		わからない	未指定	指定未購入	指定購入	25	863
1.69		いいえ			はい	579	309
1.64		いいえ			はい	18	870
1.58		いいえ			はい	98	790
1.79		いいえ			はい	16	872
2.65	いいえ				はい	16	872
2.05	いいえ				はい	209	679
1.78	2日以上	1～2日	30～60分	30分以内	ほぼなし	17	871
1.80	いいえ				はい	34	854

注4:「いいえ---はい」は、「否定的---肯定的」回答を総称したもの。

例:「まったくできなかった-あまりできなかった-ある程度できた-よくできた」

注5:ブランクの部分は回答を設けていない。

大分類 F 結果分析

- 授業成果（設問 1・有益な知識や情報が得られたか、設問 16・満足したか）

すべての科目で、有益な知識や情報が得られたか、全体的満足の 2 項とともに評点が 1～2 点台にまとまり、25 科目全体として学生に有益な知識・情報を提供し、満足を与えることに成功したといえるだろう。

- 授業内容（設問 2・難易度、設問 3・進行度、設問 4・理解度）

設問 2 内容は、評定平均でみると 1.5 点から 3.23 点の間で 2 点台を中心とした分布で、学生の期待よりもやや難しめの授業内容が多かったようだ。

設問 3 進み方は、評定平均で 2 点から 3.1 点で、やや早めと学生が感じる授業も多かったが、ほぼ適切という範疇に落ち着いている。

設問 4 理解度は、評定平均で 1.5 点から 2.98 点の間で、この分類の授業に関しては、学生はある程度理解ができたとしているといえる。

- 授業方法（設問 5・6 シラバス関連、設問 7 クラス人数、設問 8・9 教科書、設問 10・11・12 情報提供方法関連）

設問 5 シラバスについては、評定平均 1 点台が一科目（1.8）で、後はすべての科目で 2 点台となった。「少しは読んだ」というのが大筋のようである。

設問 6 シラバスと授業の整合性について評定平均からみると、1.33 点から始まって 1 点台や 2 点台前半の科目が多く、シラバスと授業の整合性について、学生が評価していることがわかる。

設問 7 クラス人数は、予想されるところであるが、有効回答数でみたクラスサイズが 10 名以下の場合は評定平均が一律 3 を超えはつきりと「少なすぎる」と考えられており、逆に 40 名を超えるサイズのクラスでは、すべて 3 を下回り、特に 90 名を超える 2 科目では 1 点台であった。この中間で 11 名から 39 名のクラスサイズでは、13 名でも 31 名でも 3 点（「適切である」となる科目もあり、際立った傾向はみえないが、20 名台で 3 点に近い 2 点台に集中し 31 名を超えると急に点数が下降するのは、学生が適切と思うサイズは、科目による差もあるがだいたい 20 名台、多くても 30 名台だとみることができよう。

設問 8 教科書は、語学系の科目で指定されているケースが多いが、指定ありでも購入しない学生がかなりの授業でみられる。逆に、教科書指定無しの科目で、教科書を購入したと応える者もいて、教科書・参考書について教員と学生の間できちんと合意ができていないのかもしれない。

設問 9 教科書と授業の整合性については、上記のように回答に混乱がみられるので詳述を避けたい。

設問 10 設問 11 はプリントについてであるが、これは教科書の指定など、教員の工夫の一環であるので、多い・少ないということよりも、配布されたプリントが授業理解を促進したか否か、重要であろう。評点平均で見ると、1.12 点から 2.25 点までの分布で、学生にとってプリントが理解促進にとってとても、または、ある程度、「有益」であったことが伺える。

設問 12 は情報提示方法の工夫に対する評価であるが、評定平均で見ると 1.4 点から 2.94 点までの間で、2 点前後を中心に分布している。これは、「配布資料や視聴覚教材など、情報提示の方法が工夫されていたか」どうかについて、「よく」あるいは「ある程度」と教員の工夫が評価されていることをしめす。

- **学習意欲喚起**（設問 13・14 課題、設問 15 学習時間）

設問 13・14 は、予習復習以外の課題が出されたか（および出された量をどう評価するか）と、出された課題が効果的かどうかを問うているが、「課題が出されたか否か」という質問に対して、同じ科目でありながら「多くの課題が出された」から「課題はまったく出されなかった」まで分かれる例があり、教科書やプリントについての項でも指摘したが、課題の内容以前に、「課題が出されていること」を理解していない学生がいるという事実と向き合わなければならないようだ。教科書・プリント・課題のそれぞれについて、「念には念を」の姿勢と提示方法が必要なのかかもしれない。設問 13 に上記のように混乱があるので、設問 14 の分析は控える。

設問 15 は授業時間外でついやした時間を平均で訊いている。ほとんどしなかったを「1」として、「5」の2時間以上までの選択肢が与えられた。有効回答者全員が「ほとんどしなかった」とした科目（評定平均 1）から、半数以上が「30 分以上」とした科目（評定平均 3.33）まで分かれたが、単位計算の建前でもある予習 1 時間・復習 2 時間といわれる自宅学習時間数からはかなり少ない時間しかかけていないという実情が伺える。

総評

授業成果

多種多様な 25 科目であるにも拘らず、有益な知識や情報の取得、また授業への満足度について、夫々 90.1%、85.2%と前年より高い評価となっている。また、この最も重要な成果関連 2 項目に対する評定平均が 1.72（最高値＝1）になっているが、前年の 1.81 と比較しても着実に向上している。

授業内容

難易度については 65.9%が難しく、28.3%はあまり理解出来なかったとしている。前年に比べ、それぞれ 0.5、5.7 ポイント減少するなど改善は図られているが、引き続き解り易い授業を行うための工夫が望まれる。

なお、関連 3 項目の評定平均は 2.34 と前年度と同一の評価にとどまっている。

授業方法

シラバスについては 41.1%が未読となっている。学習意欲を高め、また授業への理解度を上げるためにもシラバスに対する学生への関心を高めることが喫緊の課題と考えられる。

クラス人数については、約半数が多すぎるとしている点は再考が必要である。

教科書の使用については 68.8%が未使用であるものの、プリントの配布については 91.2%があったとしており、その 92.8%がプリントが有益だったとしている。こうした点から、担当教員がより望ましい形で授業に取り組んでいることは分かるが、引き続きそうした取組みを進めていくことが望まれる。

学習意欲喚起

学習意欲が喚起されたかについては、授業時間以外の関連学習時間をもって推測することが適当と思われるが、関連学習時間については 54.8%が 30 分以内としているとおり十分なものとはいえない。このため、学習意欲を喚起し、関連学習時間を増加させるための工夫が必要となる。